「アースデイとやま 2022」全体報告

アースデイとやま 2022 実行委員会一同

■はじめに

「アースデイとやま」は 1991 年以降富山県内各地で 5 月前後に毎年開催され、市民の手によるものとしては県内最大の環境啓発イベントとして、環境問題への取り組みや市民団体の連携についてさまざまな成果を上げてきました。しかし、昨年、一昨年は新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）対応のためにこれまでまったく例のない秋期のオンライン開催の形での実施となりました。その後、長期的な予測は難しいものの、次第に新型コロナの影響が減少傾向に転じ、各種の規制も徐々に緩和され、今年は以下のようにテーマを地球温暖化や気候変動問題に対する私たち一般市民の向き合い方を考えるものとし、3 年振りの対面開催となりました。

アースデイとやま 2022
テーマ：「止めよう温暖化　―今、わたしたちにできること」
日　時：6 月 5 日（日）9:00～16:00
場　所：富山市ファミリーパーク　六せん広場（富山市古沢 254）
協　力：公益財団法人　富山市ファミリーパーク公社
後　援：富山県、富山市、富山県教育委員会、富山市教育委員会、富山大学、富山県立大学、富山国際大学、富山短期大学、富山県生活協同組合連合会、（公財）とやま環境財団、富山大学生活協同組合、とやま森づくりサポートセンター、（一社）環境市民プラットフォームとやま
ホームページ URL：http://earthday-toyama.org

また、後述するように、2022 年 10 月 29 日にこのテーマに関係する特別講演会「元気の出る『太陽の使い方』教えます」（講師：京都大学大学院工学研究科　阿部　竜　教授）を開催しました。

このような例年とは異なる状況の中で作成に時間を費やしましたが、ここに本報告書を提出させていただきます。ご覧いただけると幸いに存じます。

■アースデイとやま 2022 のテーマについて

2022 年も 2021 年に引き続き、新型コロナの感染の猛威が世界を席巻し、人類社会のさまざまな領域に多大な影響をもたらしました。昨年のアースデイとやま 2021 も、コロナ禍やコロナ後の私たちの持続可能な生き方を模索するものでした。

しかしその一方で、地球規模に拡大した環境問題は今や待ったなしの状況下にあり、特に地球温暖化に代表される気候変動問題は、コロナ禍でいっそう分断の進んだ世界が改めて力を合わせ、乗り越えることが迫られています。崩れ落ちる極地の氷山や氷のない海を泳ぎ続けるホッキョクグマ、異常気象に伴う大規模災害の発生など、その危機を語る映像を私たちは数えきれないほど見続けて来ました。日常生活や産業、生物多様性に大きな影響が及ぶ中、一方でこうした問題を解決する国際間の足並みはあまり一致せず、環境問題に大きな関心を持つ人々は次第にいら立ちを隠すことが難しくなっています。私たちの求めているものは、グローバルな現状把握から自分たちが暮らしの中でできる身近な対策へと、少しずつ変わってきているように思われました。コロナ対策で培われてきた「みんなで力を合わせて乗り越える」姿勢が、環境問題の対策にも活かされていけば、この

２年間の苦労も無駄ではなかったということになるでしょう。私たちは、今年のアースデイとやまに最もふさわしいものとして、前述のようにそのテーマを「止めよう温暖化　今、わたしたちにできること」としました。

■アースデイとやま 2022 実行委員会の運営体制、活動の経緯について

アースデイとやま 2022 の運営や活動を支える主力となる実行委員の顔ぶれは、2021 年度から大きな変化がありませんでした。昨年、一昨年の状況を引き継いで会議の大半をオンラインによって行い、ほぼ月 2 回のペースで実行委員会を開催しました。第 9 回（5 月 17 日）だけは、富山 YMCA 堤町会館（富山市堤町通り 1-3-14）で対面形式によって行いました。

対面によるイベント開催を行えなかった 2 年間の影響は少なくなく、また万一対面開催ができなくなった際の対応も意識しながらの準備であったなどのため、3～4 月期の出展・出店団体の募集に遅れが見られました。また、2021 年は対面開催を検討していた際の開場予定地である富山市ファミリーパークの新型コロナ対策方針により、出展団体数を 20 以下に抑えることが必要でしたが、その影響もあってか、今年の出展・出店者数は 15 団体にとどまりました。

さらに、2021 年に出展・出店者説明会を開催後、対面開催を中止した影響か、今年の出展・出店者説明会は参加者が少なく、空席が目立つ結果となりました（写真 1）。

写真 1. アースデイとやま 2022 の出展・出店者説明会

さらに 2 年間のオンライン開催は、ボランティアの募集にも大きな影響を及ぼしました（図 1）。昨年の報告書で、

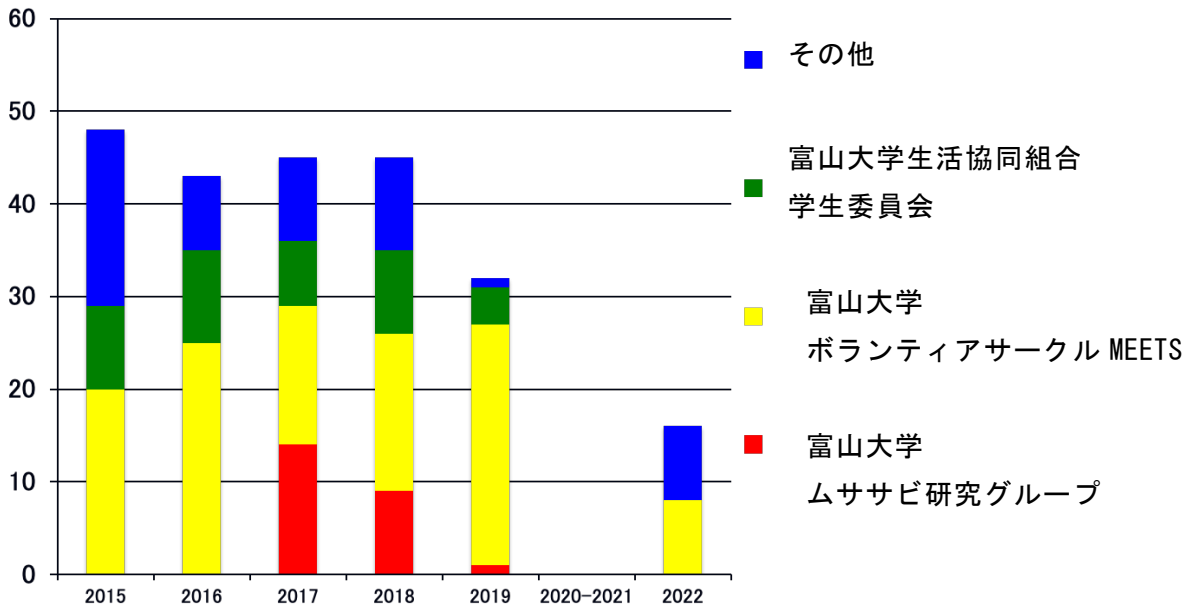

図 1. 2015 年～2022 年におけるアースデイとやまのボランティアの構成の変遷（「その他」は主に社会人；2020 年、2021 年はオンライン開催のためボランティアの募集なし）

「2 年連続のオンライン開催となったことで、会場での対面開催を支える多数の出展・出店者や大学生を中心とするボランティアの皆さんにはほとんど活躍の場がなく、これまで長年にわたりアースデイとやまを支えてきたそれらの人々とのつながりの維持や再構築が、今後の大きな課題となりました。」と記しましたが、今回は学生団体の参加が 1 団体に限られ、参加者数も少なく、今後に大きな課題を残しました。その中で今年はこれまでほとんど繋がりのなかった富山県市町村ボランティアセンターに情報を提供したところ、社会人の応募が数件あり、学生ボランティアの減少を一部補うことができました（図 1 の「その他」に該当）。

■アースデイとやま 2022 の広報活動について

前述の準備活動の遅れはポスターの作成など情報宣伝関係にも及び、ポスター掲示の開始が例年よりほぼ 1 月遅れの 5 月中旬となりました。ポスターのデザインは地球温暖化が富山県の自然環境にもたらす影響を端的に表現した興味深いものであっただけに（図 2）、掲示期間が短くなったのは残念なことでした。アースデイとやまの日程が例年の 5 月後半よりも遅い時期となったのは、その点では幸いなことでした。ポスターは 200 枚作成し、例年と同様に県内の各種公的機関や店舗などに掲示させていただきました。表面がポスターと同一のチラシは 2800 枚を作成し、教育機関や関連団体などに配布しています。

マスコミには基本情報の提供用のチラシを作成し、富山県庁内にある県政記者クラブに棚入れを行い（6 月 2 日）、事前と当日の取材を促しました。当日は、北日本新聞社などの取材がありました（「参考資料」（8 頁）に記事）。

図 2. アースデイとやま 2022 のポスター

■アースデイとやま 2022 の当日の取り組みについて

「アースデイとやま 2022」は、2022 年 6 月 5 日（日）に対面形式で開催されました（添付資料参照）。富山市ファミリーパークでの開催の場合、例年芝生広場と自然体験センター内の企画のつながりの希薄さが問題となりますが、今回は前述のように参加団体が少なかったので、すべての企画を芝生広場で行うことができました。以下にステージでのプログラムを記します。

・09：30～09：50　オープニング　横畑泰志 氏（アースデイとやま 2022 実行委員長）あいさつ
・09：50～10：20　BGM
・10：20～11：20 トークセッションⅠ「キミにもわかる地球温暖化」
　　ゲスト　① 青木一真 氏（富山大学理学部）
　　② 張　勁 氏（富山大学理学部）
　　ホスト　横畑泰志 氏（富山大学理学部、アースデイとやま 2022 実行委員会）
・11：20～12：25　音楽演奏、PR タイム（出展・出店者自己紹介）
・12：25～13：25　トークセッションⅡ「温暖化、私たちにできること１」
　　ゲスト　① 池田通則 氏（とやまの木で家をつくる会）
　　② 脇山正美 氏（泊漁業協同組合）
　　ホスト　橋本順子 氏（土遊野農場、アースデイとやま 2022 実行委員会）
・13：25～14：05　音楽演奏
・14：05～15：05　トークセッションⅢ「温暖化、私たちにできること２」
　　ゲスト　① 若林　徹 氏（富山県生活協同組合連合会）
　　② 横畑泰志 氏（富山大学生活協同組合）
　　③ 横山寛明 氏（富山大学理学部、富山大学生活協同組合）
　　ホスト　牧野由美 氏（小杉高等学校、アースデイとやま 2022 実行委員会）
・15：05～15：45　音楽演奏
・15：45～16：00　クロージング　村井仁志 氏（富山市ファミリーパーク園長）あいさつ

会場には参加者が自分自身で考え、実践する地球温暖化・気候変動対策について木の葉を模した画用紙に自由に書き込み、樹木を模したパネルに貼ることのできる「わたしのストップ温暖化アクション」のコーナーを設けました。当日このコーナーには多数の書き込み、貼り付けがありました（写真 2）。

また、2018 年以来、対面開催では毎年行っている各出展・出展者の SDGs 目標のラベリング（各団体の活動に関係する 17 目標の掲示）に加えて、今年は「教えて、あなたの温暖化アクション」と称して各団体の実践する地球温暖化・気候変動対策を書き込んだパネルを表示していただき、様々な活動が紹介されました。

以下は各トークセッションの概要です。

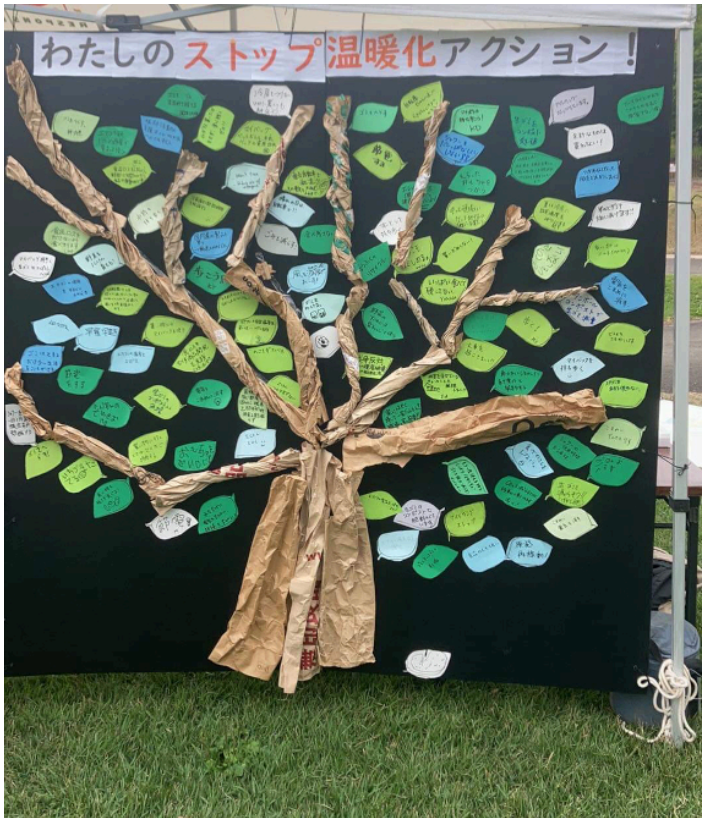

写真 2. アースデイとやま 2022 会場での「わたしのストップ温暖化アクション」のコーナー

〇トークセッションⅠ「キミにもわかる地球温暖化」

まず富山大学理学部の張教授から、由来を伏せた 3 種類の水が聴衆に配られ、美味しい水の人気投票が行われました。1 位になったのは富山の水道水、2 位が県西部の湧水、3 位が東京の水道水で、大都市の水も以前よりは美味しくなっているが、今後 10 年の温暖化で積雪が減少すると味が落ちていくかもしれない、とされました。青木教授からは温暖化による海水温の上昇によって海水の蒸発量が増え、かえって降雪量が増えることなどが説明されました。横畑教授（ホスト兼）からは温暖化による海面上昇によって絶滅したオーストラリアの島嶼産のネズミの例やイノシシの増加の話題が示されました。議論の中で、気候変動による気温上昇は、最悪の場合平均気温 45 度もあり得るが、私たちはできることからやるしかない、とされました。水は日本の重要な資源であるが、最も重要なこの国の資源は人材であるとされ、3 人の口から教育の大切さが語られました。

〇トークセッションⅡ「温暖化、私たちにできること１」

ここでは、生産者の立場からのトークが行われました。まずホストの橋本氏から、セッションⅠではすべてが繋がっていることが示されたが、農林漁業のような第一次産業もその繋がりの中にあると提起されました。脇山氏からは最近の海の変化として、「春」と「秋」の魚がいなくなっているという話がありました。これは温度の変化に敏感な魚が海の表層の温度上昇に反応しているためで、サワラが太平洋側から日本海に侵入するなど、様々な「魚の入れ替わり」が起きているという説明がありました。池田氏からは、人工林の木は農作物のようなもので、適切な管理が重要であるが、それには利用の必要であり、外国産の木材の輸入によってその仕組みが壊れているとされました。橋本氏が第一次産業は気候の影響を受けやすいと発言し、漁業や木材利用に関する話題がいくつかあり、地産地消の大切さが確認されました。聴衆からは、野生生物に関する質問もありました。

〇トークセッションⅢ「温暖化、私たちにできること２」

このセッションでは、市民生協や大学生協の関係者によって、消費に関するトークが行われました。若林氏からは富山県生協が取り組んでいるエシカル消費について、横畑氏からは富山大学生協の環境活動について説明がありました。横山氏は、富山大学生協の中で学生委員会が行っている大学周辺の清掃、店舗での容器の回収、海岸清掃などの環境活動について紹介されました。横畑、横山氏によって、大学生協の活動への新型コロナの影響についても話されました。特に、間伐材の利用による「樹恩割り箸」が紹介され、新型コロナによる大学生協の経営悪化が単価の高いこの割り箸の利用を妨げているとされました。若林氏からは、商品にある様々なマークの意味、その背景を考えて欲しいという提起がありました。さらに、富山大学を含む北陸各地域の大学生が主体的に取り組んでいる活動、「College Summit Hokuriku」（2022 年 7 月 4 日（日）、オンラインで開催）を、関係者自らに登壇して告知していただきました。

■参加者数について

対面開催での参加者数は、直近の 2019 年において富山市ファミリーパーク有料ゾーン（3,600 人）と無料ゾーン（1,271 人）来訪者数の中を取って 2,500 人前後と推定しています。今年は前者が 2,786 人、後者が 826 人であったため、同様に考えると概ね 1,800 人となりました。例年に比べて少なめの人数ですが、これは前述のポスター掲示期間の短さや、当日は雨天ではなかったものの、開催の時期が例年より遅く、梅雨期に差し掛かっていたことなどが関係していると思われます。

■特別講演会「元気の出る『太陽の使い方』教えます」について

2022 年 10 月 29 日に今年のテーマである地球温暖化・気候変動の問題に関係する特別講演会「元気の出る『太陽の使い方』教えます」を開催しました。講師の阿部　竜教授（京都大学大学院）は、人工光合成（太陽光による環境負荷の極めて少ない水素の生成）の研究で目覚ましい成果を挙げておられ、将来のエネルギー問題、さらには地球温暖化・気候変動問題の解決・緩和に大きく貢献することが期待されるので、この特別講演会の講師としてまさにふさわしい方でした。

講演の内容は従来の水素の生成法の解説から太陽光を用いた人工光合成の原理、研究の現状などにとどまらず、その社会における必要性や講師自身の研究に賭ける想いまでが熱く語られ、充実したものとなりました。ポスター（図 3）の文中にあるように、現在、ロシアのウクライナ侵攻、日本政府のエネルギー政策の大転換など予測の難しい国際情勢、政治経済的状況によって、私たちがこの問題に大きな力を注ぐことも難しさを増しています。そのような時だからこそ、私たちにはまず「元気」を出すことが求められているのではないでしょうか。

また、会場となった富山大学理学部多目的ホールの入口では、前述の「わたしのストップ温暖化アクション」の展示を行い、来場者に見ていただけました。

当日は富山大学祭の当日であり、大学祭実行委員会と連携して公開授業など他に類似した傾向のプログラムのない時間帯で行いました。学外での広範囲な情宣活動を行うことはできませんでしたが、学内でのポスター掲示、チラシ配布を集中的に行なったところ、研究分野の近い理学部化学科の教員や学生、大学院生などの関係者がかなり参加され、50 名近い参加がありました。それらの方々が、その人なりの「元気」を持って帰っていれば、この講演会には大きな成果があったと言えるでしょう。

図 3. アースデイとやま 2022 特別講演会のポスター

■アースデイとやま 2022 の反省点と今後の展望について

アースデイとやま2022は、出展・出店団体こそ少なかったものの、3年ぶりの対面開催を行えたことは大きな成果となりました。10月の特別講演会も、有意義なものとなりました。

2022年7月4日（月）に実行委員が対面で集まり、今年度の反省会を行いました。これまでに述べた準備段階での遅れに加えて、いくつかの反省点が指摘されました。学生ボランティアからも事前に反省点を取りまとめた資料が提供され、参考になりました。

その後、2022年12月23日にアースデイとやま2023の準備会が、2023年1月25日に第1回実行委員会がオンラインで開催され、2023年の実行委員会の体制やテーマが決まりつつあります。開催形態や具体的な内容は未定ですが、対面形式でのイベント開催に加えて、今年度の特別講演会のような追加的な企画も検討されています。一方で、これまでアースデイとやまを中核的な立場で支えてきた実行委員の中にも、2023年度には活動が難しいという方がおられるので、新たな実行委員の確保やこれまでに行ってきた準備のための活動の見直しも大きな課題となっています。しかしながら地球温暖化・気候変動をはじめとする環境問題はますます喫緊の度を深めており、多くの関係者のご協力をいただいて、今後とも取り組みを続けたいと考えています。

■アースデイとやま 2022 の会計報告について

最後に、アースデイとやま 2022 の会計（表 1）について述べます。

昨年度からの繰越金は 20 万円ほどでした。今年は昨年同様に富山大学生協からの賛同金がなく、収入は 12 万 5 千円ほどにとどまりましたが、一方で支出も大きく抑えられ、総支出額が 16 万 5 千円ほどとなりました。来年度の通常の形態での開催には支障のない繰越金を残すことができました。会計監査を 2021 年 7 月 20 日（水）に行い、問題のないことが確認されました（監査報告書は省略）。その後特別講演会を開催しましたが、経費は追加の賛同金などによって賄われています。

表 1. アースデイとやま 2022 収支（左：収入の部；右：支出の部；2022 年 7 月 20 日現在）

	収 入	予算	2022実績
賛同金	参加登録料	45,000	56,000
	一般賛同金	24,000	14,000
	富山県生協連合会 後援料	10,000	10,000
	賛同金 みどり共同購入会	0	3,000
	■小計	79,000	83,000
当日収入	実行委員会収益 ランチ・飲料販売	0	0
	出店者売り上げ協力金	25,000	23,330
	水道・電気支払い用集金	0	1,060
	■小計	25,000	24,390
雑収入	反省会 参加費	18,000	18,000
	土のう代金	0	40
	■小計	18,000	18,040
合計		122,000	125,430
	前年繰越金	206,219	206,219
総合計		328,219	331,649

	支 出	予算	2022実績
事務局経費	通信費	2,000	3,554
	事務消耗品費	2,000	1,372
	事務印刷・コピー費	2,000	0
	反省会（会場と食材）	0	13,401
	■小計	6,000	18,327
広告宣伝費	ポスター印刷代 *200	10,000	9,495
	チラシ印刷代*2800枚	10,000	9,857
	ポスターチラシデザイン料	40,000	40,000
	ホームページ管理費	1,700	1,298
	■小計	61,700	60,650
当日運営費	当日保険料	1,000	1,010
	ボランティアスタッフ飲料	0	2,397
	ボランティアスタッフ飲食チケット	10,000	9,400
	車両運搬費	15,000	15,000
	パーク売り上げ10%ほか返金	25,000	24,390
	■小計	51,000	52,197
実行委員会企画	講師料・交通費	25,000	25,000
	企画関係補助	5,000	3,609
	■小計	30,000	28,609
雑費	消毒液詰め替えパークへ返却分購入	0	1,051
	預かり賛同金返金（2件）	0	4,600
	振り込み手数料	2,000	440
	■小計	2,000	6,091
合計		150,700	165,874
	翌年度繰越	126,090	165,775
総合計		276,790	331,649

参考資料．新聞記事・当日の写真

気候変動問題 理解深める

アースデイ

富山

地球環境について考える「アースデイとやま2022」が、富山市古沢の市ファミリーパークで開かれた。「止めよう温暖化、今、わたしたちにできること」をテーマに、1千人以上の来場者が気候変動問題などについて理解を深めた。

実行委員会（横畑泰志委員長）が毎年開き、市民団体やNGO、NPOなどが参加した。3年ぶりの屋外開催となった。

さまざまな体験や飲食のブース、トークショーがあったほか、SDGs（持続可能な開発目標）の取り組みが来場者の身近で進んでいるかどうかを評価する投票もあった。

SDGsについて話し合う参加者ら

SDGs 目標のラベリング

飲食系のテント

2022 年 6 月 8 日付北日本新聞

本部テント

ボランティアの仲間たち

実行委員会企画

キッズコーナー

出展者テント